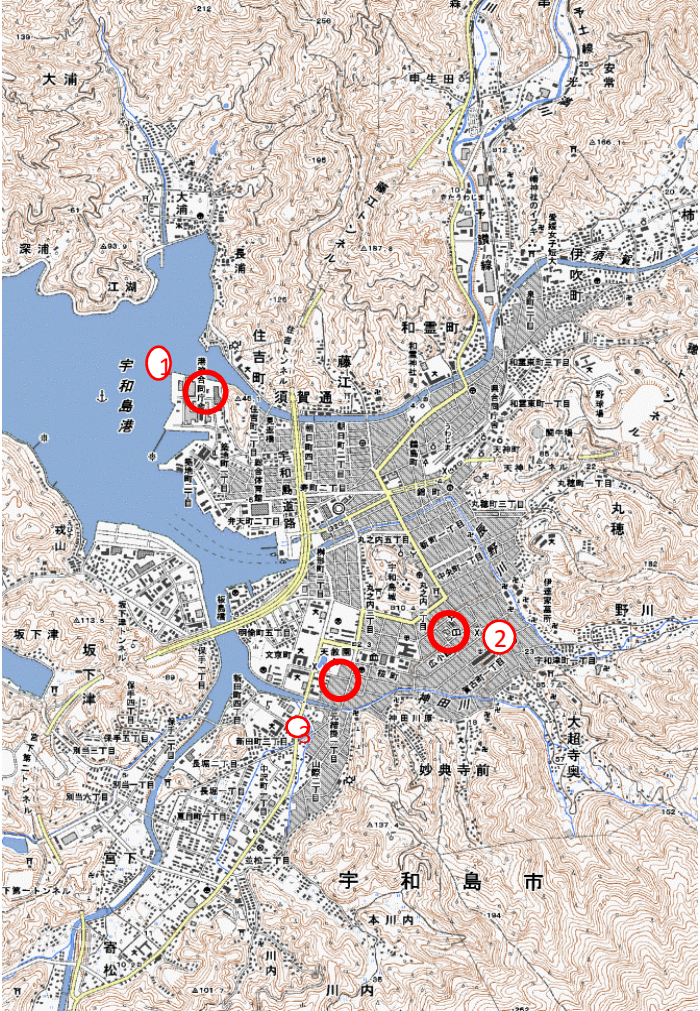


属性No	A-11	地震名	安 政	市町村名	宇和島市	整理No.	1/2
西 暦		和 暦		記載文献1	記載文献2	記載文献3	
年	月日	年	月日	地震, 第2輯, Vol.41, 1988	地震, 第2輯, Vol.41, 1988	平岩陽子修士論文, 1994	
1854	12.24	安政元	11.05				
記 載 内 容				現 地 調 査 結 果			
地 名	①住吉町3丁目4-3 ②丸ノ内5丁目1-1 ③天赦公園1-3			位置座標	①132° 33' 10.54" ②132° 33' 54.66" ③132° 33' 42.02"		
津波高記載の有無	(有)・無				①33° 13' 47.85" ②33° 13' 15.91" ③33° 12' 59.97"		
津波高(尺寸)				地盤高(m)	①2.30 ②4.10 ③2.20		
m換算	①4(羽鳥①) ②2.5(羽鳥②) ③2~3(平岩, 石塚, 村上ら)			その他			
文 献 抜 粋				現 地 写 真			
<p>[羽鳥徳太郎：瀬戸内海・豊後水道沿岸における宝永(1707)・安政(1854)・昭和(1946)南海道津波の挙動, 地震, 第2輯, Vol.41, 1988, pp.219-pp.220]より転載 宇和島：Fig4.およびFig6.記載の宇和島の津波高4m. ⇒よりA4m[但し, 津波高に関する記述文はなし]</p>							
<p>[羽鳥徳太郎：瀬戸内海・豊後水道沿岸における宝永(1707)・安政(1854)・昭和(1946)南海道津波の挙動, 地震, 第2輯, Vol.41, 1988, pp.218]より転載 宇和島 (Table1.の伊予の地名の記事は, 宇和島の古文書記録の誤りである。)：新田堤のこらす流れ, 新町川口潮溢れる. 善六ツ頃馬場下大松の辺まで津波入り, 組屋敷の辺で4尺上る. ⇒よりA2.5mと推定</p>							
<p>[平岩陽子：歴史資料に基づく四国沿岸域における津波浸水高の評価に関する研究, 修士論文, 1994, 付表]より転載 宇和島：A2~3m[但し, 津波高に関する記述文はなし] (参考資料：1993年に徳島大学(村上研究室)で取りまとめられている宇和島での安政津波の津波高に関する資料を, 以下に示す.) ・御浜辺は勿論, 御船手・須賀川筋・佐伯町・川新町・口橋へい堀木・元結木・御持筒辺迄も汐上る. ・津波のため向新町に潮上る. ⇒よりA2~3m)</p>							
備 考							
位置座標①：浸水あるも到達地点は確認できず「須賀川河口部」を位置設定とし, Web-GISで検索。							
// ②：浸水あるも到達地点は確認できず「宇和島城馬場」を位置設定とし, Web-GISで検索。							
// ③：複数地点の測量成果であるため「天赦園(浜屋敷に所在)」を位置設定とし, Web-GISで検索。							

属性No	A-11	地震名	安 政	市町村名	宇和島市	整理No.	2/2
西 暦		和 暦		記載文献4	記載文献5	記載文献6	
年	月日	年	月日	石塚淳一修士論文, 1995	自然災害科学 J.JSND, 15-1, 1996		
1854	12.24	安政元	11.05				
記 載 内 容				現 地 調 査 結 果			
地 名	①住吉町3丁目4-3 ②丸ノ内5丁目1-1 ③天赦公園1-3			位置座標	①132° 33' 10.54" ②132° 33' 54.66" ③132° 33' 42.02"		
津波高 記載の有無	○・無				①33° 13' 47.85" ②33° 13' 15.91" ③33° 12' 59.97"		
津波高 (尺寸)				地盤高 (m)	①2.30 ②4.10 ③2.20		
m換算	①4 (羽鳥①) ②2.5 (羽鳥②) ③2~3 (平岩, 石塚, 村上ら)			その他			
文 献 抜 粋				現 地 写 真			
<p>[石塚淳一：四国における津波の実態把握とその氾濫解析に関する研究, 修士論文, 1995, pp73]より転載 宇和島：御浜辺・御船手・須賀川筋・佐伯町・川新町・口橋併 堀末・元結木・御持筒辺まで汐上がる。 →上記地点の地盤高概ね約2mより。 ⇒A2~3m</p>							
<p>[村上仁士・島田富美雄・伊藤禎彦・山本尚明・石塚淳一：四国における歴史津波（1605慶長・1707宝永・1854安政）の津波高の再検討, 自然災害科学 J.JSND, 15-1, 1996, pp.43]より転載 表1. 四国沿岸での歴史津波の津波高（1946の項はM.S.L., 他はT.P.基準, 単位:m）宇和島（1854）：2~3[但し, 津波高に関する記述文はなし] （参考資料：1993年に徳島大学（村上研究室）で取りまとめられている宇和島での安政津波の津波高に関する資料を, 以下に示す。 ・御浜辺は勿論, 御船手・須賀川筋・佐伯町・川新町・口橋へい堀木・元結木・御持筒辺迄も汐上る。 ・津波のため向新町に潮上る。⇒よりA2~3m)</p>							
備 考							
位置座標①：浸水あるも到達地点は確認できず“須賀川河口部”を位置設定とし, Web-GISで検索。							
// ②：浸水あるも到達地点は確認できず“宇和島城馬場”を位置設定とし, Web-GISで検索。							
// ③：複数地点の測量成果であるため“天赦園（浜屋敷に所在）”を位置設定とし, Web-GISで検索。							